

幻の在来種「大鉄砲大豆」を復活、栽培から携わる豆腐づくり



左から近藤さん、鎌田さん、土づくりを担う植田裕介さん。
タッグを組む鎌田さんは、近藤さんのスケジュールも熟知、「大和大鉄砲」の栽培管理を担当



収穫風景



播種風景



← JAならけんの大豆専用コンバインで刈り取られる大鉄砲

連作の土づくりに欠かせない牛糞堆肥は、有限会社J1・タケダファームの植田さんが毎日早朝に山添の牧場から10tトラックで2往復



会社近くのレストラン「花一番」での人気メニュー
大和大鉄砲大豆の揚げ出し定食
大和大鉄砲大豆の豆乳ジェラート

自然と暮らそう

vol.152

有限会社 三木食品工業
専務取締役 近藤 正洋 さん



粒の大きい「大鉄砲大豆」。左は奈良県産「サチユタカ」、右は一般的によく使われるカナダ産大豆

日本の食生活に欠かせない豆腐は、奈良にルーツを持つ食材。「豆腐は奈良が発祥の地、奈良県産の大豆で豆腐を作りたい」と、豆腐屋魂に燃えた奮闘の末、かつては作られていたが消滅しかけていた「大鉄砲」という味の良い在来種に巡り合い、農家さんと一緒に栽培、復活。それを使ったおいしい豆腐をヒットさせているのが、有限会社三木食品工業専務取締役の近藤正洋さんだ。

近藤さんは大阪市生まれ育ち、甲子園にエースとして出場した生粋の野球少年だったが、ひじを傷めて野球を断念。大学卒業後は、大手スーパーに就職、調理師免許を取り、店舗の教育係を担うなど、サラリーマンとして働いていた。

2009年、35歳のとき、現職場の三木一見社長から「継いでくれへんか」と頼まれた。実は、大恋愛の末に結婚していた妻の一世さんは、三木氏の長女だったのだ。自分でできるのか、家族は養っていけるのか、1年間悩んだ末に承諾、

「田原本に…」の連絡が入り、つないでもらったのは、株式会社鎌田ファームの鎌田淳氏。快諾を得た。

次いで、ある筋から「大鉄砲」という在来種の存在があったことを知り、その力強い名称に心奪われ、どんな大豆なのかわからないうちから「それで作ろう！」と決めた。

さて、その種探し。県の農業研究開発センターや国会図書館にも足を運んだが、なぜ作られなくなったのかもわからないまま、思いを募らせていた2017年春、県外の種苗会社に大鉄砲の種が残っていることがわかった。

すぐさま全量の10袋を買い取り、6月、鎌田さんと一緒に20坪の畑に植えた。茎も葉も大きく付いた鞠も圧巻の大きさ。晩秋に収穫した豆は、一般の大粒より更に大粒。凝固に必要なたんぱく質含有率はやや低かったものの、糖度は高い。

試作してみると、「めっちゃくちゃおいしい。大豆でこんなに味が変わるのか」と衝撃を受けた。可能性を実感、翌年から耕作地を10倍の2畝に増やした。豪雨、猛暑、台風には泣いたが、鎌田氏の尽力で2020年には7畝10ノの収量を達成するほどに。

同大豆は、2020年2月、『大和大鉄砲』と商標登録した。「奈良で守らねば」との思いからだ。種植えも収穫も社員25人全員で行う。「農家さんの思いを知ることと感謝が芽生え、よりおいしい豆腐を」の思いにつながるし、自慢できるも

入社した。

しかし豆腐業界の現実は一筋縄ではいかない。昭和30年代には5万件と今のコンビニの数ほどあった豆腐屋は10分の1ほどに減った。中規模の三木食品は大手の価格競争には太刀打ちできず、かといって地域密着型の個人商店のようにできたてを提供することもできない。立ち位置に悩みつつも、「いいものを作るしかない」と、生き残りかけた模索が始まった。

2016年に奈良公園で開催されたシエフエスタに出店した折、シエフたちの奈良県産食材への強いこだわりを目の当たりにし、自らが県産大豆を使っていることに引け目を覚めた。「奈良県産の大豆で作ったろ」と決意、早速、地元で大豆を作ってくれる農家探しと大豆探しに奔走した。

奈良は水田が多く、畑地に適する大豆生産者は少なく難渋。2017年、ある勉強会で出会った野菜ソムリエ上級プロの西野慎一氏に相談した。1か月後、

のづくりへの自負心が生まれる」と。

「大豆の花言葉は『無限』。来年からは、味噌や醤油、きな粉など日本の伝統食に並び、県産大豆で奈良の食を盛り上げ、次世代へつなげていきたい」と、白球から持ち替えた白い豆腐に愛と情熱を注ぐ「豆腐屋」の夢は大きい。

【大鉄砲豆腐】
ミシュランガイドにも載っているようなレストランや料亭でも使われており、田原本町のふるさと納税の返礼品としても人気

有限会社 三木食品工業
TEL.0743-59-0246
本社/奈良市富雄川西1-18-21
営業本部/大和郡山市馬司町792-1

三木食品 検索

KONDO MASAHIRO
1973年、大阪生まれ、大学卒業後、スーパー勤務を経て、36歳で三木食品工業へ入社。県産大豆での製品化を目指す過程で、人との縁から幻の在来種「大鉄砲」、耕作農家などに巡り合い、栽培から手掛けて復活、『大鉄砲豆腐』を製造販売中。